

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173800582		
法人名	有限会社ライフケア		
事業所名	グループホームひまわり ユニット I		
所在地	日高郡新ひだか町静内旭町1丁目30番29号		
自己評価作成日	平成31年1月31日	評価結果市町村受理日	平成31年3月12日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2018_02_2_kihon=true&JigyosyoCd=0173800582-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	平成31年2月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

年齢的なことや疾病により日々の生活が難しくなっていく中で、一方的な支援ではなくその人らしく過ごせるように構築することに力を入れている。入所者の残存能力を十分に引き出せる関わりや見守りに努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して16年目の「グループホームひまわり」は平屋建て2ユニットの事業所で、周辺は住宅、病院、旭町生活館、役場等があり、少し足を延ばすと商業施設が建ち並び、生活環境に優れている。事業所は、全てが広々とした造りになっており、ユニット間は自由に行き来でき、利用者同士も顔馴染みの関係になっている。職員は、コミュニケーション能力や洞察力を高めながら、利用者や家族の思いに応えたいと日々研鑽に努めている。利用者の要望により、夫婦での外出と菓子の購入支援を行い、日常生活の活性化と利用者の満足感に繋げている。避難訓練では旭町生活館での炊き出しの訓練を行い、おにぎりや豚汁を食し、町内会主催の敬老会では温かいおもてなしを受け、ボランティアによる手芸や工作クラブへの参加、事業所前庭での焼肉、個人宅での栗拾い等々、全て地域、家族のボランティアにより行われており、事業所は感謝の意を表している。地域資源の役割を十分に認識して前進している事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	項 目	取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を作り上げ、毎朝復唱し職員は常にケア実践に向け取り組んでいる。	地域社会との関係性を踏まえた運営理念、介護理念、介護スタッフの心構えを策定している。さらに、職員の意見が反映された年度毎の目標を立て、機会を捉えてケアサービスで実践されているかの確認を行っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所の行事には地域住民を招き、焼肉パーティーやクリスマス会などで楽しみ交流を行っている。	地域とは馴染みの関係にあり、中学校の吹奏楽部や静内合唱団の演奏会に利用者と出かけ観賞している。町内会主催の敬老会やカラオケに参加し、来訪の小・中学生の芸能披露やクリスマス会には地域の方の日舞披露があり、心地良い刺激に繋げている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議やホーム行事の際にグループホームの特性や日常生活状況を報告し、地域との交流に取り組んでいる。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では入所者の状況・行事の報告・取組について意見交換を行いサービスの向上に努めている。	会議は年6回開催され、多種多様な地域関係者や家族、利用者、行政の参加を得ている。現状報告後に参加者から意見や情報があり、子供達との交流の実現や災害時に於けるマニュアルや、家族間の連絡網等の提案があり、運営の充実に活かしている。	活動報告にとどまらずテーマを設定しての意見や情報交換、参加者の意見や提案に対する取り組み状況の説明、議事録の整備と事業所内への掲示、参加者からの意見の引き出し等により、さらなる会議の活性化に期待する。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町と情報を共有し、町や関連団体が主催する研修会などに参加している。事業所の実情や取組を伝え協力関係を築いている。	事故報告等の提出時や連絡事項は、担当窓口を訪れたり電話で実情を伝えている。利用者の生活状況確認に来訪の担当者とは、情報交換を行い安心な生活を支えている。独自で実施していた行方不明者搜索訓練は、行政と連携が得られ、協働での訓練となっている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に話し合い、職員の言動などについて確認し、入所者が安全な暮らしを送れるよう身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束をしない取り組みは、指針の整備や適正化委員会の開催、研修会を行い、職員に周知徹底を図っている。理念にも一人ひとりの尊重を謳っており、代表者や管理者は、適切なケアに向けての助言を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の講習で学んだ内容を会議などで報告し皆で学習できるようにしている。職員の言葉・態度に日頃から注意をはらい防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は成年後見制度について学ぶ機会が少なく、今後学べる機会を持ち支援に取り組めるように努める。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約内容をわかりやすく説明し、話し合いを行って理解や納得に努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時などに意見や要望を聞き運営に反映できるよう努めている。お便りで日常の様子を伝え、外部の意見や要望を運営に反映できるように意見箱を設置している。	家族来訪時は基より、定期的な事業所便りや担当職員からの手紙で、利用者の日常を報告している。面会や行事への参加等で、意見や要望を述べている。家族からの発案で手芸・工作クラブの発足や、ボランティアによる栗拾いが恒例行事になっている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員各自の意見や提案を検討し運営に反映できるよう努めている。	代表者や管理者は、日々の関わりや会議等で、職員から意見や提案を傾聴している。職員は、歌やゲーム、外出レク等を交替で担当しており、提案やアイデアを上司に伝えている。シフト調整や外部研修への参加も柔軟に対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が働きやすいように常に意見や要望を聞き、出された要望や意見は検討して職場環境条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受ける機会を増やし、知識や技術を身につけスキルアップに繋げるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関係機関主催の研修などに参加して交流、サービス向上に繋げる取組に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の本人や御家族からの情報収集で、入所後の生活をより安定できるよう状況把握に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の御家族の懸念事項を知ること、入所後の対応に役立て関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	環境が変わることによって本人の心身を含めた状況も変化するので、まずは新環境に慣れてもらい、必要な支援の見極めに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人ができることの発見を意識し、日々関わりを持つことに努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と御家族との関係性を認識し、本人の今後の生活を充実したものにするため適切な情報交換を心がけている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	余暇時間を利用し、本人が大切にしてきた場所や人との縁が途切れないよう出かけたり面会の場を設けたりすることに努めている。	職員も地元出身であることから、利用者や家族と顔馴染みの関係にある。家族や知人、住民の方も気軽に尋ねて来て利用者と歓談している。帰宅願望の利用者とドライブで自宅付近を訪れるなど、入居以前の関わりを大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	性格的な部分を考慮して、利用者同士がなじめるよう職員が仲裁に入り関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院による退居の場合にもお見舞いなどの面会に行ったり、亡くなられた方の葬儀に参列したりしている。家族の状態をくみ取り、相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段からのコミュニケーションを大切に今本人が何を望んでいるか、どうしてもらったら嬉しいか、本人の気持ちになって考えるよう努めている。	家族の支援で、利用者の要望であるカラオケや自宅訪問が実現している。日々の関わりから、利用者の思いを傾聴したり、推し量り、迅速な解決を基本としている。飲酒の希望は、祝日に機会を作っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の生活歴や環境を資料として残す一方、御家族からのお話等で把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所者の一日を記録し、職員間で情報交換するなど入所者の変化の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の申し送り、毎月の職員会議などで現状の確認や目標の評価を行っている。	4ヵ月毎の更新時や状態悪化時は、新たな介護計画を策定している。毎月のモニタリングや介護計画の目標達成度を踏まえ、医療従事者の意見を参考に全員参加の会議で、利用者や家族の望む介護計画になるよう協議している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌や個別の記録で職員全体の情報を共有し、都度口頭でも確認できるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時その時の心身の状態に即し、御家族への連絡、日々の生活の変化に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の行事への参加、また、弊所の行事に地域住民を招待することで普段から関わりを多く持つことに努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隣接の病院を入所後のかかりつけ医とし、隔週で往診してもらっている。また、特変があった時は毎日の訪問看護もしてもらっている。	利用者全員が、月2回の訪問医を主治医としており、訪問日以外でも来訪がある。月1回の訪問看護師の健康チェックや、他科受診は職員が同行支援を行っている。重篤時に於いても協力体制にあり、利用者や家族の安心を得ている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と常に連携をとり専門的なアドバイスを受けている。医療面の他に生活面でも相談をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを	入院の際は本人のADLなどの情報提供を行い早期退院に向けて相談・情報交換で本人の退院に向けた関係づくりに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階から家族と話し合いを行い、家族の希望を尋ね、事業所で行える最大限の支援が行えるよう医療機関とも協力体制に取り組んでいる。	入居時に重度化や終末期に於ける指針を説明し、同意を得ている。急変時には、医師から家族に説明があり、家族の意向確認後にチームケアとしての看取り支援が行われている。人生のエピローグには、他の職員も駆け付け、お別れの言葉をかけている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルは作成しているが定期的な訓練は行っていない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災避難訓練を消防署の指導を受け行っている。年2回、日中・夜間を想定して入所者・地域住民が参加して行っている。地域の協力体制で取り組んでいる。	消防署や地域の協力を得て、夜間想定火災訓練として旭町生活館に避難し、炊き出しのみにぎり豚汁を食している。3月に日中想定訓練を計画している。連絡網に地域住民も登録され、備蓄品や津波での一時避難場所も確保している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	加齢とともにできないことは増えるが、人生の先輩として敬いの念と愛情をもって接するよう心掛けている。	内・外部の接遇研修や勉強会は基より、言葉遣いなど日常的に代表者や管理者の教えがあり、正しい理解に繋げている。特に排泄、入浴、着替え時は羞恥心に配慮した対応に努め、また、個人書類の取り扱いも適切である。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が納得した形で介助できるよう本人の希望や選択を尊重するよう日々努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	集団生活ではあるが、個々の生活が基本なので、一人ひとりの好みや生活歴を尊重した支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時の着替えは、一緒に選んでもらっている。起床時や離床時の整髪、顔拭き、行事等の衣類、化粧の支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	見た目や盛り付けを工夫し、入所者一人ひとりに合わせた形態で提供している。食器拭きや食器下げの手伝いをしてもらっている。	料理専門職員が利用者の食欲を増す献立を基に副菜を作り、他のユニットにも配食している。誕生日は要望のメニューとし、また、屋外での焼肉、菜園の収穫物や地域、家族からの差し入れのお米や野菜を活用しての料理、外食も取り入れるなど、食の変化や楽しみになるよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えたメニューを提供している。食事や水分の量は記録に残し、すぐに確認できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後できる方には口腔ケアを促し行ってもらっている。できない場合は一部介助または全介助で支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	可能な入所者には日中は布の下着を使用している。一人ひとりの排泄パターンを把握し、昼夜共にトイレへの誘導や促しの支援をしている。	殆どの利用者は布下着を着用しているが、利用者の状態によって衛生用品を適宜使い分けている。声かけやトイレ誘導等により布下着に移行できた利用者もあり、自立に繋がるとして衛生用品の使用は必要最小限としている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な水分摂取、夏季の毎日の散歩、オリーブオイルの定時摂取など個々に応じた便秘の予防対策に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調に合わせて入浴にこだわらずシャワー浴や足浴、清拭(更衣)、ドライシャンプーなどの清潔保持を実施している。	午後から週2回を目安に入浴支援を行い、毎日や2～3日置きに入る方など様々だが、2人介助も行いながら利用者が浴槽で寛げるよう努めている。会話からケアプランの目標になる事もある。焼きミョウバンを活用しての入浴剤で保湿クリームは無用になっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	行事のない時は午後から昼寝をしたり、季節に応じた寝具をこまめに洗濯や日光浴したりするなど安眠できるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬の情報や症状の変化を確認し、必要に応じて服薬の調整に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩、テレビ鑑賞、読書など楽しみながら気分転換ができるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	夏季の毎日の散歩、おやつレクは、町内の店舗に出かけ、外食する機会を作っている。観桜会やバラ見学等季節に応じ自然と触れ合い刺激を受けることを意識した支援を心がけている。	車椅子の利用者も一緒に景色を眺めながら散歩をしているが、時にはベンチで花壇を鑑賞したりテラスで日光浴をしている。地域のイベントに出かけたり、桜見物、甘味処で好きなお菓子を食べ、牧場のバラ園見物、個人宅での栗拾いなど、五感刺激に繋げている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人へ確認し能力を見極め手元にお金がある安心感を配慮し管理を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の実情に応じて電話などで連絡できるようにしている。また、職員が代理で連絡するなど希望に沿う対応に努めている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木造づくりで温かな印象で適度な光を取り入れ入所者が不快感や混乱を持たないよう配慮している。日頃から季節感を取り入れ入所者と装飾づくりをしている。	各ユニットは連絡通路でつながっており自由に行き来できる。代表者の雛飾りや、地域から寄贈の雛飾りがユニット内を華やかにし、日当たりの良いサロンには、観葉植物が青々としており春の雰囲気漂っている。全体が広々とした空間の中、利用者が自分の居場所でゆったりと過ごしている姿がうかがえた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳の場所やソファがあり、暖かい時期にはバルコニーのテーブルや椅子を利用できるように工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や小物を持ち込むことができ、居心地良く過ごせる空間や環境作りに工夫している。	6. 5畳ある居室には、ベッドやクローゼットが設置されている。利用者や家族が居室に置きたい調度品や生活用品、家族写真、装飾品が持ち込まれ、利用者が安心して過ごせる環境の一役を担っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の残存機能を見極め自立した生活を支えられるように日々工夫に努めている。		